

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【地域別】柴崎学習館【概要】

令和2年11月28日（土）

13時30分～14時30分

場所 柴崎学習館

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。タウンミーティングにご参加をいただきまして大変ありがとうございます。10年間毎年8回程度のタウンミーティングを実施していますが、女子中学生に出席をいただいたというのは初めてのことです。とてもうれしく思います。

このタウンミーティングは市民の皆さんのお声を聴いて、そして立川の行政を改善していこう、より良くしていこう、こういう気持ちから始まったものでございます。私も市長になりまして14年目になります。3期が終わって去年の夏に選挙があったものですから、4期目の市長です。

去年の選挙から、また目標を立てまして「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」というまちづくりを目指しています。にぎわいとやすらぎというのは相反する言葉です。人が大勢にぎわってくれば、ざわざわする、わいわいする、がやがやすするというのが一般的な解釈ですけれども、もちろんそれはあるにしても別のところでは、例えば芸術でありますとか、文化の催し物であるとか、非常に中身の濃い活動もあるわけです。その2つを並行に育てていけば、絶対に住みやすいまちづくりができるのではないかと、こういう気持ちからこのにぎわいとやすらぎの都市を築き上げていこうという思いで市長職を全うさせていただいているわけでございます。

本来なら今年開催だったオリンピックパラリンピックも、来年いよいよ行われそうでございます。立川市もおかげさまで毎日16万人に上る大変多くのお客さんに立川駅から電車に乗っていただいている。それから駅の北口ではGREEN SPRINGS(グリーンスプリングス)という名前を付けて、開発がありました。その中には美術館があって、その建物で油絵や現代芸術を中心とした展示をしております、いわゆる文化性の高い方向性が立川のまちにも芽生えてきたと思っております。

7～8年ぐらい前から本市の小学生は全員、ファーレ立川のパブリックアートを見学することとしています。これからは美術館も見学していただくということで、立川の中学生は全員が美術鑑賞に行き、アートを経験して、心の中身を視野広くできるようになってもらいたいということで進めておまして、大変将来が楽しみだなと思っているところでございます。

そのような背景もある中で、人が大勢住むほど様々な課題が出てまいります。そういう中で皆さんが気づいたことをこういう機会を利用してご発信、ご発声をいただいて、私どもの行政推進のための肥やしにさせていただきたいなと思い、この会を立川市内全域で年に8回ぐらいずつやっているわけございまして、今日もその一環でございます。ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただきまして、私どもに勉強させていただきたいなと思ってい

るところでございます。

決まった時間内でございますので、なかなか難しい面もあるかと思えますけど、ぜひご協力をいただきますようお願い申し上げて冒頭のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2 意見交換会

(参加者)

立川一中に通っています。初めて選挙を通して市長になったときの気持ちはどのような気持ちでしたか。

(市長)

市長になったらこういう仕事をやりたいという思いは今でも変わらないのですが、さっき言いましたにぎわいとやすらぎの相反した命題の政治目標を目指していきたいなという気持ちでした。でも、やっぱり当選だという話を聞いたときは震えていました。久しぶりにその感触を今思い出していますけれども、わけもなく震えてしまったんです。だから理屈も何も分からないのですが、とにかく体が震えたと、それが一番ですね。怖かったのでしょうし、武者震いもあったのかも分かりませんし、そのような気持ちでした。わけの分からないあまり上手に説明できないような気持ちでした。

(参加者)

意見ではないのですが、市長を目指そうと思った理由は何ですか。

(市長)

私は市長になる前に、市の収入役というのをやっていました。今は収入役制度というのとはなくなったのですが、お金、現金を保管したり、あるいは支出をしたり、そういう仕事をする役目でしょうか。形式としては市長が一番トップにいます、次に副市長がおります、その次が収入役ということで、大体3番手ぐらいの立場にありました。その前は市議会議員をやっていました。36歳から11年ちょっとやりまして、その後で収入役を任されました。実は私の父親も市議会議員をやっておりまして、地域の皆さんのいろいろな相談事を引き受けて議会で発言をして、地域の皆さんのいろいろな思いを実現していたのを身近に見ていたものですから、人のお役に立つというのは結構尊い、いい仕事であるなという思いを持っていました。その前は大学出てすぐはある銀行に勤めておりまして、それから36歳で市議会議員になったということです。ですから、父親の背中を見ながら人のお役に立てる仕事をやってみたいなのというのにはありました。そこが一番だったかもしれません。

(参加者)

立川一中に通っています。立川市では燃えるごみ、燃えないごみなどのごみの分別をしていると思いますが、ほかの市や町によってごみの分別をしていないところがあると聞きました。市や町によってごみを分けるとか、分けないなどの分別の違いが出るのはなぜですか。

(市長)

ごみは分別をしなければ埋めるか燃やすしか、処理方法がありません。埋めることについても公害が出る可能性があります。山の斜面に穴を掘って埋めるとか、平地でも平らなところに穴を掘って埋めるしかないわけです。それからもう一つは燃やすということです。燃やすということはきれいにはなりませんけれども、様々な煙が出たり、においが出たり、人が生きている社会に悪影響を引き起こすということがありますので、お金がかかったり、面倒もかかったりしますけれども、できるだけ分別をしていただきたい。

分別をしていただくことによって、どうしても燃やさなければならないごみの量を、大きく減らすことができます。それ以外のものは様々な形、例えば農家の堆肥に充てるとか、捨てたり燃やしたりしない使い道があるわけです。そうやってリサイクルすることによって、空気をきれいに保つ、あるいは町なかもきれいにしていく。そういう私たちが生きていく上で、いい傾向になるものばかりしか残らないという形です。それが分別の大元の考え方です。

(参加者)

曙町3丁目から来ました。

今、新型コロナウイルスの感染が非常に心配されていますけど、その感染予防というのは、それについてはPCR検査をすることが非常に有効だということが昨日のテレビで、北九州市の例が示されていました。そのPCR検査と感染者の増え方の違いで、北九州市は、国内で多くの感染者が出ている中で非常に少ない感染者数で抑えられている。その原因がPCR検査を比較的手軽に、また広くできるような形にしてあるという北九州市長の説明があったのですが、立川市においてもこのPCR検査を手軽に、または金銭的に補助して広く受けられるようにするのが、やはり感染予防の一番の手段だと思うんです。

昨日のテレビでは、重症者による死亡よりも軽症、中等症による死亡のほうが多いと話していました。亡くなった重症者が6名ぐらいなのにも関わらず、軽症、中等症者の死亡者は45名ぐらいというようなことが出ていて、やはり早めの検査、無症状の方でも感染を広げたり、または急に悪化するという可能性があるとの説明があったのですが、まずはPCR検査、または抗原検査とか、いろんな検査があると思うのですが、それをもっと金銭的にも補助したり、保障したりする中でもっと大勢の人に広げていく政策はどうされているかお聞きしたいと思います。

(市長)

PCR検査についてですが、立川市独自のPCR検査センターをつくりました。3週間ぐらい前からスタートしております。この運用については立川市の医師会の先生方をお願いをしましてPCR検査をするということでスタートをしているところでございます。しかしながらまだ数名しかそこで検査は受けておりません。そこを必要とするまでの方々はまだいらっしゃらないのです。普通の病院で今間に合っているのだそうです。ですから、今のところ立川市が開設をした検査室が十分に稼働しなくても済んでいるという結果になっております。

(総合政策部長)

希望される方は誰でもPCR検査が受けられるような体制にしてほしいというご質問だと思います。現在はやはりかかりつけ医にまずは相談をして発熱等の症状を聞いた上でその医師がPCR検査の必要があるということ判断した方が検査の対象となっております。

例えば無症状であって、心配だからPCR検査を受けるといご希望に私どもが何か支援をするということまでには至っていない状況でございます。

検査が必要とされた方については、特に費用はかかっておりません。もし全く無症状でも検査を希望するということになると、今一般では3万円程度の高額な費用がかかります。ただ、そこまでやることで逆に医療を逼迫させてしまうということも言われている部分もでございます。このため、今後の感染状況を見た中で、また市長中心に判断をしたいと考えています。以上でございます。

(参加者)

PCR検査で医療が逼迫するとかいうご意見はありますが、検査についてはもっと受け入れ態勢はできていると思うんです。みんなが検査を申し込むと、保健所の手続き等が大変になるというのは以前聞きました。ただ実際に検査するところとしては、十分に検査できる体制があると思います。保健所のいろんな手続きや追跡調査など、そういったことや書類作成で手間がかかっているという話は聞きましたけど、その辺はもう少し効率よく合理化ができるんじゃないかなと思うんです。よろしく願いいたします。

(総合政策部長)

ご意見として承ります。実際先ほど市長が申し上げたとおり、市としてはPCR検査センターというのを1か所立ち上げておりますが、やはり保健所を中心に運営している状況でございます。保健所と連携をした中で今後の対応を含め、今のご意見を参考にした中で進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(参加者)

立川一中に通学しています。

質問というより提案なのですが、この頃お父さんとかお母さんが仕事で夜遅くなって、子どもを預かってくれる場所が増えてきて、そこまで多くはないと思うんですけど、冬場になると結構暗くなるのも早くて、暗い道が多いのでそこに街灯を付けて少し明るくしてくれたら、小学生も安全に下校できるかなと思います。

(市長)

昨日あたりは、4時半ぐらいでもう外が暗かったですね。確かにおっしゃるとおりで、通常の街路灯がないところで真っ暗になってしまうということですが、これは今後きちんと考えていく課題であるということで、真正面から受け止めさせていただきます。

(参加者)

柴崎町1丁目に住んでおります。

私は約6年前、介護のことで都内の大田区から引っ越してきました。もともと転勤族で、80歳以上で初めての引っ越しじゃなくて、11回目の引っ越しになります。それで、最初は

立川ってものすごい田舎じゃないかと思っていたんですが、住んでみたらものすごく住みやすいまちだという、しかも若い人が多くて、自分も若くなったような感じですね。

住んで感じたのは、まずヘリの音がちょっと耳に障るなということ。ちょうど柴崎町1丁目の上空でヘリの高度が低くなります。自衛隊とかそういうもののご苦勞が良く分かりますので、できたらもうちょっと高度を高く、何とかできないかなということで、航路のちょうど下になりますので、一番に感じました。

それからいくつか言わせていただきたいのですが、介護の件でいろいろお世話になりました、私は田舎育ちで体が頑強なものですから、年の割にはお役に立てることもあるんじゃないかと思えます。お手伝いできることはそういう範囲の中でお手伝いできるようにしたらどうかと思っています。これから後期高齢者がどんどん増えるわけですが、そういう人たちにできるだけ手伝ってもら。対価をポイント制にして、馬のニンジンじゃないですけども、少し働く気を起こさせるとか、そうすれば自分ももっと動けなくなった場合に、プラスになる、帰ってくるのではないかということを感じました。

それからもう一つ、あちこちの市管理のトイレが随分汚れていて、もうちょっと手入れをしたら良いのではないかなと思うわけです。例えば根川のところにもトイレがありますし、駅のところにもトイレがありますし、駅のところのトイレは随分きれいになったのですが、1つの民度のレベルというか、その指標にもなるんじゃないかと思えますので、その辺にもちょっと手を加えていただいたらいいのかなと思えます。以上です。

(市長)

ヘリの騒音に関しましては、交渉と努力ということで、機会をつくって申し入れはさせていたきたいと思えます。

それから高齢者の労働ということの要望でございますけれども、私どももつついそういうところに目がいきませんで、一律に高齢になったら引退をというふうな価値観を今まで持ってきたわけです。働くことができる方が遊んでいるというのはもったいない話で、ご本人も恐らく退屈なさるでしょう。1つの申し入れとして受け止めさせていただきます。

それから市の管理するトイレに関しましては、確かに多すぎるという声はあまりなくて、さらに造ってほしいという話があるのですけれども、そのあとの公衆トイレの清潔度はおっしゃるとおりのことが私も目にしていたりしますので、この辺しっかりと気を付けてまいりたいと思えます。

(参加者)

泉町に住んでいます。立川一中の教員です。

今日は生徒の質問を真摯に受け止めていただきありがとうございます。

本日は子どもと妻と一緒に来させていただいたのですが、今は賃貸に住んでいますが、立川市に今後住んでいくかどうかをちょっと今検討している段階で、できれば立川一中で教員として働いているということもあるのですが、これからの子育て支援でしたり、今後の教育について、これからここに住むということになったときに大きいウエイトになってくるかなといったところで、今後、子育て支援と教育についてどういうふうにお考えになっているか、お聞かせ願えればと思えますのでよろしくお願いします。

(市長)

教育の方向性については私の専管事項ではなく、教育委員会となるのですが、まちづくりの基本は、教育に大きなウエイトがあると考えております。子どもたちが社会へ出ていく上での最低限のモラルとか、様々なことを小中学校で教えていただいて、そして次へ巣立っていくわけでありますから、初等教育の重要性というのは十分に承知をしているつもりでございます。ただ、若干、子どもたちの減少の傾向が見えてきました。そうした点をどうしたらいいかというのはもう少し時間をおかないと最終的には良く分からないですが、データ上赤ちゃんの生まれる率、あるいは転入をしてきて小学校へ入る率などを見てみると、若干の減少が懸念されるような数字が見えるようになりました。その両方を、いわゆる経営の部分と本来である教育の部分、これをどうマッチさせていくのかというところが今後の小中学校の教育の大きな課題になるのではないかと考えていますので、しっかりと慎重に私はこの件については対応してまいりたいと思っております。

(総合政策部長)

市長は教育や子育てに対しては非常に課題というか政策的に優先度高く取り組んでおります。1つその表れとしましては、予算の中で例えば福祉分野に充てるお金であるとか、建設分野といろいろありますけれども、立川市は近隣市と比較しても教育費の占める割合というのが高くなっています。毎年10%以上が教育費となっています。

それと例えば具体的な施策でいうと、一中の皆さんは既にタブレットパソコンを受け取りましたでしょうか。これは市長と教育長が相談をした中で本来は2年かけて小学校、中学校に1人1台のタブレットパソコンを導入しようということだったのですが、協議の中で今年中に導入しようということになりました。小学生は少し遅れてしまうのですが、そういった施策も市長自らが力を入れている証ではないかと思えます。

それと先日、学校のトイレの洋式化率が新聞でも取り上げられましたが、調査によれば立川市は都内で3番目の高さとなっています。それもやはり、以前は学校のトイレが和式であるとか、においが気になるという意見をいただいていた中で、そういった予算付けをしています。衛生や健康に直接関係することですので大胆に改修ですとか、トイレだけとはにかくきれいにしようという施策もそういった表れだと思っております。

(参加者)

羽衣町から来ました。

今、市政全般のいろんな相談というか、お話がありましたけど、私のほうはちょっと地域的なことで要望というか、ちょっとお願いがあります。それは現在多摩立川保健所があるところに今後大きな障害者施設ができます。

そこで障害者施設の人たちといろいろ話し合いを進めておりますが、先日施設を建設するにあたって、道路のセットバックがあるとの話題になりました。それはそれで道路が広がるからいいだろうというのですが、現況としては、現在のL型道路の側溝ですね、L型のところに何本か電柱があるんですね。あと道路反射鏡でしょうか。それが施設側のほうとしては何ともしようがないということで、道路が1メートル引込みますと、電柱がその分引っ張っちゃうわけですね。ですからその施設ができた後なり、並行してでもいいんですけれど、この電柱の移設、それを少しお考えいただかないとせっかく広げた道路が、4メートル公道が5メートルになるというところですが、電柱が障害物になっちゃうのか

なというふうに思いますので、ご検討いただければと思います。

それともう1点は、今年各自治会なんですけど、諸行事がコロナの影響で中止になりました、実入りが減ったわけなんですけど、先日の話では諸行事が中止となったために市からの補助金が出ないんだよというような話も聞きました。その辺はいかがなものなんでしょうかというお問い合わせでございます。

(市長)

まず電柱の関係ですけれども、現場を見ないと良く分からないところがありますけれども、通常ですと業者のほうで東京電力と話をして、移設をお願いする話になるかと思いますが、いずれにしても市の開発関係の課による対応等もある可能性がありますから、しっかりと見極めまして対応するつもりでおります。

(参加者)

ちょうど曲がり角に電柱があって、真ん中にもあったと思うんですね。これがL型に沿ってありますから、L型の道路が1メートル引込むと電柱だけ残っちゃう。

最終的には費用をどこが負担するかというようなことも話に出たんですけどね。どっちにしてもせっかく広がって電柱だけ残るといっても変ですから、あと角につける反射鏡っていうのでしょうかね。そういうものも一緒についていますから、それも一緒に引っ込めてもらえればね。ですから東電1か所だけでは済まないかなという気もしております。

(総合政策部長)

すみません、2点目の自治会への補助金のお話でございます。確かにおっしゃられるとおり、今年はコロナ禍ということで、様々な活動を皆さんが自粛されている状況で、補助に制限が出ているのは自治会だけではない状況でございます。また今日のタウンミーティングの中で参加者の方からそういったご意見が出たというのは自治会を担当している課のほうにお伝えいたします。

(参加者)

柴崎町6丁目に住んでおります。根川緑道の件でご質問です。

下水道の整備により根川の水がなくなるというお話を聞いて、近所の住民としてやすらぎの場の雰囲気は少し変わるのかなと心配していたところなのですが、議会だよりなどでも水がなくなることはないと読みまして、ちょっと勉強不足で申し訳ないのですが、その辺の経過をちょっと詳しく知りたいなと思いますのでご説明をいただければと思います。

(総合政策部長)

私のほうから答えさせていただきます。

根川緑道、先ほど市長が述べた「やすらぎ」の部分はこういった場所を含め、立川のいいところでございます。根川緑道は人工的に造ったものでございまして、今の水というのは多摩川のそばに下水処理場がございます。その水を処理した高度処理水をまた上流まで持って行ってそれを流しているということで、湧いている水ではございません。ただ、ご存じの方も多いかもかもしれませんけれども、その下水処理場は立川市独自のものでござい

す。東京都全般を見ますと、東京都の流域下水道ということで東京都の施設に最終処理をしていただいているケースのほうが多くて、立川市の独自でやっている部分も今ちょうど地下を掘っているところがございますけれど、その部分を国立市にあります東京都の処理施設に送る計画をしております。そうしますと今まで市独自に処理をしていた水が、そこで処理されなくなりますので、そういった意味では今まで根川に流していた水はなくなります。

ただし、やはり根川緑道、春は桜、曼殊沙華であったり、秋は紅葉であったりということで四季折々、皆様本当にあそこを散歩されている方多いですから、市長もあその水は絶対枯らしてはいけないということがございまして、今ほかの方法で水を確保して同じような状況で根川のせせらぎ水を継続するというところで計画をしているところがございます。ですので、具体的に設計に入っていく中でまた広報等でもその辺については詳しくお知らせしますが、枯れてなくなるということではございません。代替りの水の確保を計画しているところがございます。

(参加者)

柴崎町4丁目から来ました。近隣騒音トラブルについてお伺いしたいのですが、50年ぐらい近所でそういった騒音が続いている地区があるんです。今までいろいろ相談した方もいらしたようで、つい最近も警察に相談した方がいらっしゃって、警察の方が聞き取りに来たのですが、それだけで終わってしまったんです。

こういったことって人権問題にも配慮しないといけないと思うのですが、立川市のほうではどういった取り組みが行われているのでしょうか。

住んでいる方の声が、10年ぐらい続いているのですが、今のところ近所の方もずっと我慢しているような状態です。結構心身ともに来るような状況なので、大きなことに発展する場合も懸念されますけど、結局は解決してないという状態です。

住んでいる人たちは安易に引っ越しできませんし、そういったことというのは市のほうではご存じなのか、どういう取り組みをなさっているのか聞きたいです。

(総合政策部長)

少し一般論になってしまって恐縮でございますが、人のそういったことによる騒音というか、ご近所にお住まいの方からの相談というのは実際にはございます。このケースがどなたかということ、ここではちょっと特定はしませんし、その方に対する人権の問題もございまして、あくまで一般論としてお答えをさせていただきますが、やはり問題解決は非常に難しいというのが現状でございます。その方の住む権利ということもございまして。ただ周りの方が十分に睡眠も取れないというようなこともあるでしょうし、個々にコンタクトをとった中で話をしてどういった解決が図れるのかということ粘り強くやるしかないのかなと思っています。

(参加者)

やはり個人間で解決するというのが一番よろしいという市の提案でしょうか。

(総合政策部長)

個人間で解決が図れたケースはあまり聞いたことがありません。やはりそこには、例えば福祉部門の行政であるとか医療であるとか、そういったことを含めた中で解決方法を模索するしかないのではないのでしょうか。近隣の方から直接言ったことで、その方がそれを受け入れるということには、なかなか至らないのではないかと、今の話だけでは何とも言えませんけれど、一般論ですとそういったことが言えると思います。

(参加者)

富士見町からまいりました。よろしくお願ひします。

1点お礼と、それから1点はお願ひがござひます。

まずお礼のほうですけれども、先の市民1人当たり1万円の給付金、大変助かりました。ありがたく思います。私のところも年老いた両親2人と、それから食べ盛りの一中に通っている息子が1人いまして、大変ありがたいなと思っています。先の選挙のときに市長さんが市民の皆さんから、お預かりした税金は1円たりとも無駄にしないというようなお話がありました。本当に元銀行マンの市長さんは締まっているなと思ったんですけども、こういう使うときにはしっかり使うということが分かりまして、大変ありがたいというお礼です。

それからもう1点は明後日から市内の商店でPayPayを使うと20パーセント還元するという事業が始まります。私も急いでPayPay入りまして、いただいた1万円をしっかりと入金をして市内の商店で使おうと思っているのですが、私、実は地元で商店会の役員をしております、このPayPay導入に当たって市の広報、これが配布されてそこでいろいろと商店の皆さん入ってくださいということでご案内をいただいたんですけども、若干間違いがあったということで、私も商店からいくつか問い合わせをいただいて、あと役員の皆さんもそれぞれちょっと混乱をしたことがござひました。やはり立川市の広報、多くの方が見て、それを非常に信用して、連絡先の掲載等願ひしておりますので、やはりダブルチェック等、しっかりとさせていただきたいなという要望が1点です。

ただ、ぜひこの事業は成功していただきたいと思っていますし、私も地元の商店街ではぜひこういう機会に商店、売り上げ厳しいところ、特に飲食店ござひますので、加入してせつかく市の後押しがあるから頑張ってやってこうよと、乗り切ろうよという話をさせていただいておりますので、引き続きこの辺もご支援をいただければという願ひです。

願ひいたします。

(市長)

まず、最初のほうはおっしゃるとおりでお礼の言葉をいただきありがとうございます。

PayPayに関してはホームランとは言わなくても3塁打ぐらいにはなってもらいたいなという気持ちでおりまして、しっかりやっていきたいなと思います。立川ここにありというのは、今回このPayPayにかかっているとも私自身思っておりまして、うまくいくことを願っておりますので、ぜひいろいろ後押しをしていただきたいなと思います。よろしく願ひします。

(総合政策部長)

広報の電話番号の誤記載についてまずお詫びを申し上げます。私の立場は広報も所管をしておりますので、チェックが足りなかったということでございます。事業者の方にも非常にご迷惑をおかけしました。事業者の方が問い合わせる電話番号だったのですが、そういうことがないようにこれから気を付けてまいります。本当に申し訳ございませんでした。

3 閉会の挨拶

(市長)

どうも皆さん、お忙しいところご参加いただきまして、なおかつこれだけ盛会裏にこの会が催せましたこと、もう皆さん方のご協力のおかげ以外には何もないと思っているところでございます。今回いただきましたエネルギーを行政のほうに100%還元して行政つかさどってまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。